

【佳作】

水を次の命につなぐ

石巻市立河南東中学校
一年 三浦葉奈

蛇口をひねれば出てきて、それに何の疑問を持たずに飲むことができている。私たちは、それが当たり前になっているけれども、それは日本に住んでいるから当たり前になっているだけでとても幸せなことである。そして、そんな水が豊かであるからこそ、私たちが普段口にしているお米もおいしく食べることができなのだ。私たちはその当たり前を当たり前と思っではいけないのでしょうか。生きるために必要な水、それに生きるために必要なお米。これからも美味しいお米、おいしい水を食べ続ける、飲み続けるためにもお米と水はとて大切にしなさいといけない。お米とお米に必要な水を、次の世代にもつなげないといけないと思う。

いつも食卓に当たり前のように出てくるご飯。私の家のご飯は自家製米だ。五月に近づくにつれ、田植えが始まる。私は田植えが始まる前に家族で一先懸命準備をする。私は、毎年田植えを手伝っている。

五月は「ゴールデンウィーク」がある。しかし、私の家族は「ゴールデンウィーク」と書く。お父さんが「我が家は農家だから名付けた。」と言っていた。田植えの日になると家族総出で田植えをする。私にとつてお米も水も身近な存在で、当たり前にあるものだから、水の大切さなんて考えたこともなかった。田植えが終わって、何日か経ったある日、お父さんとおじいちゃんが会話していたので私もその会話に入った。お父さんが、「今年は雨がなかなか降らない。」

と言っていた。私はなぜお父さんとおじいちゃんが雨が降らないことで困っていたのかその時の私にはわからなかった。

私は二人の会話を聞いたり、ニュースを見たりして、知った。お米は水

がないと美味しく食べることができないのだ。水不足が原因で、いつものように田んぼに水が入れられなくなってしまう。地域ごとに計画的に水を入れなければならない。猛暑などでお米がうまく育たなくなるなど、ニュースを見て私はとてもびっくりした。色々な人がお米を育てているので大量の水が必要なことを知った。私はお米を作るのを手伝っているにも関わらず、いつものように日常を過ごしていることを知りすぐ後悔している。私がいつも通り過ごしている時には、お父さんとおじいちゃんがとても悩んでいたと思う。私は「水が無いとお米が育たない」と思うと、とても苦しい生活になるのではないかと私は心配している。

お米は人間にとつて大切な食べ物だ。お米にとつて水は私たち人間以上になくしてはならない存在である。水が不足すればお米の生育が妨げられて、上手く育たず美味しいお米ができなくなってしまう。そのためにも、日本に住んでいる皆さんは、水を大事にしなさいといけないのだ。去年は、家族総出で頑張ったお米をみんなで夜ご飯の時に食べた。お米がたくさん作られている日本という国は、世界に類を見ない国であることが分かった。つまり、お米がたくさん作られている国は、豊かな水がある。それは当たり前ではないことなのだ。

普段あまりに当たり前すぎて気づかなかったが、その豊かな水も私たちの心がけ次第で変わってしまう。水は私たちの生活の最も大事な土台にあつて、その土台で支えてくれている。飲み物として、清潔を保つため、お米を作るためなど、蛇口をひねって出てくる水を飲むことができる国は世界でたった十二ヶ国しかない。そのため私は、水を大切に飲まないといけないと思う。私たちは、美味しいお米を食べている。美味しいお米を食べることができるのは、お米と水が強く結びついているからなのだ。私たちは、そういう国で生活できていることをもっともっと知るべきだと私は思う。